

2025年7月

アダプト・ア・ドクタープロジェクト

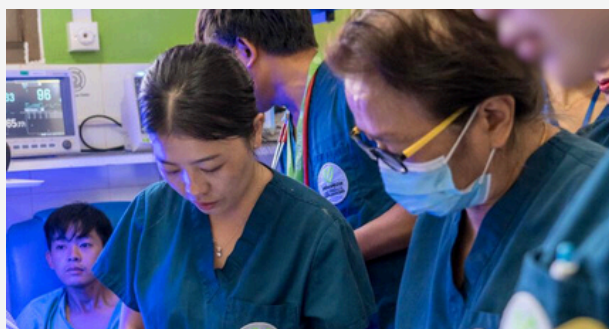
ソムチッタナ医師 近況報告



ソムチッタナ医師は、ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）で最も経験豊富な臨床医の一人です。そんな彼女へのご支援をいただいていることに大変感謝しております。

彼女の近況としては、外来診療の業務を継続しつつ、救急部門（ED）での勤務シフトを少しずつ増やしていることです。迅速な判断とチームワークが不可欠であるEDでの業務環境が気に入っているそうです。また、EDでは学びの機会が多く、特に彼女が更に学びたいと思っている整形外科の症例からは多くの学びを実感しているようです。彼女のEDでの存在は、病院にとってもとても価値あるものと言えます。

EDが比較的落ち着いている時には、外来で順番を待っている患者さんの診療を引き受け、待ち時間を短縮することも可能となります。



彼女の豊富な経験から、EDと外来の両部門を監督する役割も担ってもらっています。

病院が最近直面した深刻な課題の一つは、麻疹（はしか）の流行です。今年5月ごろに始まった今回の流行は、ソムチッタナ医師がこれまでに経験した中で最も深刻なものだと言います。従来、麻疹は季節性で、入院を要するケースは稀でしたが、現在は重症で複数の合併症を伴う患者さんが多数来院し、死亡率も高くなることから、状況はとても深刻です。

当院では患者数の急増に対して入院を要する患者さんを受け入れられないため、県立病院に協力要請し、12床の臨時特別病棟を設置しました。この臨時病棟でも、患者数の増加は依然として大きな課題となっているために、ソムチッタナ医師はシニアの立場から患者入院の必要性の判断において、非常に困難な決断を迫られています。これらの判断は、彼女の経験、臨床的判断力、小児医療に関する深い知識にゆだねられています。

2025年7月

彼女はそれぞれの症例の状況を慎重に評価し、最も緊急性の高いケースと、自宅で安全に管理できるケース、または他の施設で対応可能なケースを見極めます。特に毎日新たな重症患者が次々と搬送されてくる中での素早い判断を下すことは、彼女の業務の中でも最も大変かつ重要な部分です。



ソムチッタナ医師が最近経験したEDでの症例をご紹介します。EDの当直中、ソムチッタナ医師は気管支炎と疑われる敗血症性ショックを疑う1歳の子供を治療しました。呼吸停止の兆候に気づいた彼女は、すぐに子供をICUに転送し気管挿管を実施し、患者さんを安定させました。迅速なチームワークのおかげで、患者さんは命を繋ぎ無事に退院することができました。この時も彼女の素早い判断と行動が功を奏したと言えるでしょう。

4月から彼女が引き受けたもう一つの重要な役割は、死亡事例のレビューを主導することです。この役割において、彼女は各事例をチームに提示し、改善すべき点、そしてよくできた点をオープンに議論し、よりよい医療の提供へ繋がるようにします。彼女は、このレビューを通して、LFHCでの臨床ケアの質の向上と院内スタッフの継続的な学習を促す生産的な方法の一つだと考え、今後も力を入れていきたいと言っています。

ソムチッタナ医師は、皆様の継続的な支援に心より感謝しています。このご支援が、彼女が天職とする仕事-子供たちのケアと次世代の医師の育成-を続けることを可能としているからです。

プライベートでは、現在医学を学ぶ21歳の娘さんに教えることを楽しんでいます。彼女は、娘が将来LFHCで働くことを希望しています。それは、当院が医師にとって最高の学習機会を提供していることを知っているからです。

皆様からのご支援は、ソムチッタナのような素晴らしい医師を支援しているだけでなく、ラオスの数多くの子供たちのために、現在も未来も利益をもたらすスキルと知識を強化する手助けとなっています。スタッフ一同、心より感謝申し上げます。そして、引き続きのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

ラオ・フレンズ小児病院

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN代表 赤尾和美